

季節性インフルエンザワクチンの高齢者への接種回数を見直した経緯について（平成 12 年）

【インフルエンザ HA ワクチンの使用方法】

平成 12 年 7 月 薬事法上の用法・用量の改訂（平成 12 年 4 月 中央薬事審議会での審議）

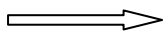
旧 およそ、1～4 週間の間隔をおいて 0.5ml ずつ、2 回皮下に注射する。ただし、6 歳から 13 歳未満のものには 0.3ml、1 歳から 6 歳未満のものには 0.2ml、1 歳未満のものには 0.1ml ずつ 2 回注射する



新 0.5ml を皮下に、1 回又はおよそ 1～4 週間の間隔をおいて 2 回注射する。ただし、6 歳から 13 歳未満のものには 0.3ml、1 歳から 6 歳未満のものには 0.2ml、1 歳未満のものには 0.1ml ずつ 2 回注射する

【研究班による検討結果】

「インフルエンザワクチンの効果に関する研究（主任研究者 神谷 齊：国立療養所三重病院院長）」H9～11 年度



65 歳以上の高齢者に対するインフルエンザワクチンの有効性を検討した結果、接種回数は 1 回で十分に効果があるとの結果が得られた。

上記、過程に加え、

- 1 先進諸外国においては、新しい型のインフルエンザウイルスが出現しない限り、年少児を除いて、殆どの人がインフルエンザに対する基礎免疫を獲得しているので、1 回の接種で追加免疫の効果があるとする考えが一般的であること。
- 2 また、我が国におけるインフルエンザワクチンの接種回数に関する近年の研究結果を検討し、65 歳以上の高齢者については、1 回の接種で十分有効であるとの結論に至ったものである。